

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|---|-----------------|--------------|---|-----------------------|---------|-------|--------------|-----------|--------|---|
| 科目名 | 国際看護学演習 Global Nursing Seminar | | 担当教員 (研究室番号) | 清水 真由美 (407) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | | | | | | |
| 履修年次 | 4年次後期 | 科目区分 | 総合科目 | | 選択区分 | 自由 | 単位数(時間) | 1(15) | 授業形態 | 講義・演習 | 科目等履修生 | 否 |
| | | | | | | | | | | オープンクラス | 否 | |
| 科目目的 | 国際保健・看護協力および国内における多文化共生に貢献できる能力を養う。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ポリシー(DP) | 主要なDP | C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現) | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現) G 看護学に対する研究的視点を持ち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 異文化への理解を深め、多文化共生・持続可能な社会の在り方を考察できる。 2. 国際保健・看護活動の実際、諸外国の保健医療・看護制度への理解を深めることができる。 3. 国際保健・看護活動で用いられる展開手法を理解し、その一部を活用できる。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(基準) | アイスブレイクの実施(10%)、授業参加態度(40%)、発表(50%) | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と基準等 | 当初評価で合格点数に満たない場合には、追加レポートなどにより再試験を行う。ただし、当初評価の点数は加味しない。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 使用しない。 | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 適宜紹介する。 | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待 | グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブラーニング形式で授業を行います。積極的にグループワークやディスカッションに参加してください。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 国際協力の場面だけでなく、国内の健康教育、地域活動、会合などで活用できるアイスブレイク、ファシリテーションの基本も学びます。グループワークによる演習が中心となるため、履修者2名以上で開講します。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | | 学習内容 | | | | 主担当教員 | 授業方法 | | |
| 1回 | コースオリエンテーション 異文化理解と多文化共生 1 | | | | 授業の目的や進め方を知る。 グループワーク等を通して、自分の中の文化的視点に気付く。 | | | | 清水 | 講義/ 演習 | | |
| 2回 | 異文化理解と多文化共生 2 | | | | 異文化理解と多文化共生について考える。 | | | | 清水 | 講義/ 演習 | | |
| 3回 | 異文化理解と多文化共生 3 | | | | グループワーク等を通して、難民のおかれている状況を学ぶ。 | | | | 清水 | 講義/ 演習 | | |
| 4回 | 異文化理解と多文化共生 4 | | | | 講義・ビデオから身近に存在する難民について理解を深め、共に生きていくためにできることを考える。 | | | | 清水 | 講義/ 演習 | | |
| 5回 | ジレンマとその対応 1 | | | | ゲーミング手法を学ぶ手段として、災害対応カードゲーム「クロスロード」を行い、ジレンマ場面で必要となるさまざまな対応について考える。 | | | | 清水 | 講義/ 演習 | | |
| 6回 | ジレンマとその対応 2 | | | | 災害時に生じる問題の解決策を考える。さらに、国際開発援助等におけるゲーミング手法の活用について考える。 | | | | 清水 | 講義/ 演習 | | |
| 7回 | 異文化理解と多文化共生 5 | | | | 医療通訳の実際および外国人の課題について学び、外国人に対する支援の在り方について考える。 | | | | 学外協力者/ 清水 | 講義/ 演習 | | |
| 8回 | 世界の保健医療看護・文化 | | | | 関心のあるテーマもしくは外国の保健医療、福祉、看護教育制度について発表する。 | | | | 清水 | 講義/ 演習 | | |

学 習 課 題

課題①：グループもしくは個人で、授業開始時にアイスブレイクを実施する(配点10点)

課題②：グループもしくは個人で、国際協力や異文化などにおいて関心のあるテーマ、もしくは外国の保健医療・福祉・看護教育制度などについて調べ、パワーポイントにまとめて発表する。発表終了後、パワーポイントを提出する(配点50点)

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員は、看護職として国際協力の実務経験がある。国際保健・看護の教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。